

平成19年5月31日

保護者各位

鹿児島県立鹿児島中央高等学校
校長 獅子目 博文

麻疹（はしか）の予防と診断後の対応について（お願い）

保護者の皆様には、日頃から本校教育活動について深い御理解・御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、現在、関東地方を中心に全国各地で麻疹が流行拡大しています。今後、罹患の広がり状況等勘案すると、本県も多発・蔓延の可能性が予想されるところです。

つきましては、感染及び感染拡大を予防するため、御家庭でお子さんの健康状態を十分に観察され、下記のことにご注意いただきますようお願いいたします。

なお、裏面に県保健福祉部健康増進課の資料を添付しますので、参考にして下さい。

記

1 確認事項と注意事項について

- (1) 予防接種歴を御確認下さい。(母子手帳や病院での抗体検査により確認できます。)
- (2) 予防接種を受けたことがなく、麻疹にかかったことがない場合は、早めに医療機関に御相談されるようお勧めします。(家族も同様とする。)
- (3) 麻疹の症状に気がついたら、すぐに医療機関に電話で連絡した後、受診して下さい。(麻疹の症状：初期は発熱、鼻水、流涙、咳等の症状。それに続いて発疹が発生。)

2 診断後の対応について

- (1) 麻疹の診断を受けた場合(麻疹の疑いも含む。)は、感染拡大防止のため、「解熱した後3日を経過するまで」の間は、出席停止となります。
- (2) 発症後、一旦熱が下がりますが、感染力が強いため、医療機関の指示に従い完全に回復してから登校させて下さい。

麻疹（はしか）について

鹿児島県保健福祉部健康増進課

麻疹は感染力が非常に強く、重症な場合には肺炎や脳炎を合併することもある病気です。また、特に幼児や成人では重篤になりやすいので注意が必要です。

予防には、麻疹ワクチンの接種が有効です。1歳児と小学校就学前一年間は予防接種法による定期接種、それ以外は任意接種となります。

【麻疹の特徴】

- (1) 感染経路：飛沫・空気感染
- (2) 潜伏期：10～12日
- (3) 症状：
 - ① 前駆期：3～5日間、発熱、咳、鼻水など「かぜ」に似た症状が続く。
 - ② 発しん期：一旦熱が下がるが再び高熱が出て、顔、首、全身に発しんが現れ4～5日間続く。
 - ③ 回復期：発熱は治まり、発しんは色素沈着を残して消退する。
- (4) 治療：特効薬はなく対症療法
- (5) 患者に接したとき：接触後3日以内であれば、予防接種により発症予防効果が期待できる。
- (6) 出席停止の基準：解熱した後3日を経過するまで。

【注意事項】

- 麻疹の予防
予防接種が有効です。
また、バランスの良い食事や十分に睡眠を取るなど身体の抵抗力をつけましょう。
- 麻疹患者に接触した場合
予防接種をまだ受け入れていない場合でも、患者と接触して3日以内に予防接種を受けると発症予防できるとされていますので、医師に相談をしてください。
- 疑われる症状が出現した場合
発熱、咳、発しんなどの症状が出た場合には、学校や仕事を休み、早めに医療機関を受診してください。過去に予防接種を受けたことのある方は、発しん等の典型的な症状が出現しないことがありますので、症状だけで判断せずにかかりつけ医等にご相談ください。
- 医療機関を受診する場合
麻疹様症状がある場合や患者との接触が疑われる場合は、受診をする予定の医療機関に、事前に電話で連絡をしてから受診してください。